

期 日 令和2年2月25日(火)
18:30~20:49
会 場 本別町体育館研修室

北谷部会長・橋本委員・細田委員・朝日委員・井出委員
事務局 高橋課長、長屋課長補佐

1. 開 会

2. 北谷部会長あいさつ

今日の部会は事務局から事前に資料が郵送されていると思いますが、議事の1から9までについて事務局に説明いただきながら、各委員が気が付いたこと等について、発言いただいて総括していくという形をとりたいと思います。

3. 議 事

① 1章1節 1項 生涯学習によるまちづくりの確立、2項 ほんべつ学びの日の充実
について委員より意見・質問（総括シート **11月14日配布資料1** P1~3）

部会長：早速進めて行きます。1番目に生涯学習によるまちづくりについて、各委員から質問をいただいている部分、それから事務局総括評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局説明

・基本方針⇒生涯学習によるまちづくり／学びの充実から人材育成や横断的な連携／4つの風
ほんべつ学びの日の充実

・事前質問 **2月20日送付資料** P1~2
=1-1-1 (2) 学んだ成果の発信

ボランティア活動を持続させるためには行政が主導すべき⇒ボランティアは自発的な意思により貢献いただくことと捉えている表現として表記。行政が導くことは必要。

活動者が固定化し、複数団体で協力している状況で負担に。実態を調査し、見直し必要⇒2年度に高齢化実態調査を実施し、今後の体制づくりを検討。

子どもの見守りについて集約すべき⇒教育委員会では通学路の安全点検、不審者対応について関係者と協議して行っている。すきやきたいは個々の思いからの活動。青色回転パトロール隊は一部の人に負担が偏っているため、町全体で見守っていることを見える形で取り組んでいきたい。

花壇の整備では高齢化によりできなくなっている⇒コミュニティ活動のなかで実施できる範囲でお願いしたい。

・事務局評価C（達成率40%~60%未満）

いきいきほんべつふれあいまつり／マメに出前講座／サロン活動／花壇整備／資源回収／図書館ボランティア／通学路みまもり（交通指導員、すきやきたい、青色回転パトロール隊、あいさつ運動）／ほんべつ学びの日4つの風

部会長：事務局からはC評価ということで反省の弁でしたが。委員の皆様の見方とか、ご意見がありましたら。

委員：Cという評価だけれどBでいいのでは。ここに回答のあるとおり、ボランティアは自発的な意志によるものであって、指導してくれとかではなく。私もたまに参加するが、役場の人が指導してはボランティアでは無くなる。人口が少なくなってもこれだけ色々なことをしているから。少し力は落ちているかもしれないが、それぞれに頑張ってもらって、役場の人がサポートすることで、やれるところまで、やっていけばいいと思う。

委員：問題は高齢になって固定化していること。その人、たった1人がいなくなったら、5人も6人もいなくなったようになってしまう可能性がある。その1人が多岐に渡ってボランティアを行っている。自分の自治会もあれば、福祉の関係もやっていて、その人がいなくなったらどうするのかと考えると任せるだけではなくて日頃から次の人を育てることを役場として指導的にやっていかなければならないのではないかという気はする。

委員：そうなれば、その時になんとかする。商工会青年部もそう。50代の人たちがいなくなったら困ると思っていたけれども、今、次の人が出てきて頑張っている。本別はまだ余力があると思う。

委員：このC評価をAにしようとするときに、どのようにしていけばAになると考えているのか。

事務局：世代は変わっていくので、中学生や小学生から、人と人のつながり、5年おきとか3年おきでは無くて、毎年やるべきことは毎年繰り返すことを続けていかないと、どこかで休むと間が空いてしまう。それはしっかりと予算だとか手間だとかをかけ続けることが大事であると反省している。

委員：次の人を積極的に加入していったほうが良い。文化協会の役員をしているが下の人が入ってこないと言っていたら、若い人がやってみたいと言って、今度から参加してもらおう。自分から手を上げづらいということもある。だから声をかけていくということも必要。だからB評価でいい。まちづくり、ボランティアに関して一生懸命やっていると思う。

事務局：行政だけではなく、団体や自治会のみなさんも、両方で後押ししていくことが大事。

委員：勝手連的なボランティアからよく言われるのは、そのことについてとやかく言う必要はないのではないかと。それは勝手にやっていること。けれども、あの人が一生涯懸命やってくれているというのは見ている。あの人がいなくなったら、次はあの人だろうねとか、病気がち、体調を崩しているということを知ると、大丈夫なのかという目で見えてしまう。できるだけその人の意志を継いでやれる体制をつくっていくようにサポートしていかないと、放っておいてもなんとかならない。

委員：ボランティアの育成だけでなく、体制づくりまで入って行って、行政の人は色々と知っているから、力仕事の手伝いだけではなくて、体制のフォローアップもしているということでB評価でいい。

委員：見守りの関係にしても南4丁目では駆け込み、こども110番の家の関係で多くの企業が協力的に取り組んでいる。あのような取り組みが他の部分にも出てくれば。子どもたちの安心をつくる体制が本別は出来ている。安心感を与えることができる。それが町外の人が見た時に本別のまちの印象として伝わっていく。事務局の回答に書いてあったとおり、青色回転パトロール隊で取り組んでいる防犯のシートを町民に協力ももらって、申し出者に付けてもらうことで、防犯の車がたくさん走っていると目につく、ここでは悪いことができないと思わせるような雰囲気をつくることで防犯活動がさらに充実していく。そのようにどんどん取り組んで実施していけばいい。C評価まで低い評価はしなくてもいい。

委員：婦人部で今までやって来ていることは、皆さんにやっていただいているのだけれども、後に繋いでいくということがすごく難しい。よくやってくれていると言われるけれども好きだからやっている。ボランティアの魅力が浸透していくと他の人もやってくれる人が出てくれ

ばいいなど。私たちが声掛けはするけれども、好きだからしている。でも、あの人は好きだからやっていると聞こえてくると、これはなんとかする方法はないかと考えるがそれ以上は本人がやっていることであって、それ以上言えないのが本音。ボランティアというのは個々人が分かって活動をしていると思う、ただ、後に繋げていく方法というのがなかなか難しい。

委員：ボランティアはみんな、そういうふうにしてやっていると思うけれども、見返りは誰も求めている。自発的に何かできないかと行動していること。ただ、やっていることに対して、「あの人は好きだから」と言われると一番腹立たしい。

委員：腹立たしい。

委員：そこで子どもたちが見守りをしている人に「ありがとう」と感謝の気持ち、保護者が感謝の気持ちを持って接してくれれば、気持ちよくボランティアできる。そのような雰囲気作りを行政がやってくれれば。

委員：腹立たしい人が8人、9人いるかもしれないけれども、1人ぐらひは感謝の声をかけてくれる人も居るかもしれないから。

委員：それは良い人にあたったからかも。

委員：ボランティアしている人は沢山いる。ただ、イヤミを言われると腹立たしいから「こんなことやってられないわ」となる。行政で体制づくりをするということであれば、ボランティアの人たちが長く気持ちよくやってもらうためにはどのようなことが必要かを考えてもらえれば良い。評価についてまったくやっていないのではないので、CではなくてBが良い。

委員：Bだと思う。一生懸命やっている。

部会長：ボランティアの関係では体制が出来ていると思う。それではこの項目はBでいいですか。

② 1章4節 1項 地域文化活動の振興 について委員より意見・質問

(総括シート **11月14日配布資料1** P26~29)

部会長：それでは次の地域文化活動の進展について事務局からお願いします。

事務局説明

- ・基本方針⇒自主的な文化活動の支援／文化に接する機会の拡充／伝統文化継承／歴史民俗資料館を豊かな経験を提供する場に
- ・事前質問＝なし
- ・事務局評価B（達成率 60%～80%未満）
文化協会、芸術文化事業振興会活動／公民館講座／伝統伝承芸能活動／本別空襲企画展／本別空襲を伝える会／マメシジミ・ヒカリゴケ／本別川鉄橋

部会長：芸術文化協会の役員さんいかがですか。

委員：地元の資源、マメシジミとか、アンケートの中にも中学・高校生が本別に帰って来たくないという意見があった。嘆かわしい。2年ほど前に浦幌の学芸員の話聴いた。浦幌の地層がすばらしいとの話をしていて。その話を聴いて感動した。私が子どもであったなら帰って来たいと思うような力強い話であった。一度、浦幌を出るようなことがあっても、いずれ浦幌に戻って来たいと思うような気持ちを定着させるものであった。本別も森と川の舎の人の話はすばらしかった。本別のすばらしさを何らかの形で子どもたちに伝えて、その中から郷土愛が育まれて、一度、離れても戻ってこようと思えるようにすべき。郷土愛が足りないからアンケート結果として本別に住みたくないとなる一因ではないかと思う。

部会長：事務局はBと評価していて、特に大きな問題点はないということで、今、意見のあったとおり、本別町の良さをもっと宣伝ことに力を入れるべきとすることをコメントにすることでよろしいですか。

③ 2章4節 1項 雇用環境と勤労者福祉の整備 について委員より意見・質問

(総括シート **11月14日配布資料1** P84~89)

部会長：続いて雇用環境と勤労者福祉について事務局より説明をお願いします。

事務局説明

・基本方針⇒就労の場の確保／若年・女性労働者の地元定着／中・高校生インターンシップ研修

・事前質問=**2月20日送付資料** P8~9

=2-4-1 (1) 雇用の場の確保と情報提供

役場の障がい者雇用は何人?⇒3人。

障がい者就労支援サービスから一般就労へ移行する取り組みについて⇒一般就労を希望する人には個別相談により対応。

地元就職、高校卒業者、障がい者、季節労働者に対してどのように対策しているのか。情報はどこで知れるのか⇒中学生、高校生の職場体験、介護サービス職場体験、建設事業説明会などで理解をいただき、地元で就職いただく取り組みを実施。役場正面玄関に雇用情報コーナーや、とちぎ東北部移住サポートセンターのホームページでも情報を提供。

=2-4-1 (2) 労働環境と労働福祉の充実

振動病検診受診で人数は少ないのに H30 年度の金額が高くなっているのは?⇒検査料金の値上により高くなっている。4割を町で負担。

人手不足から外国人雇用が多くなる。生活・雇用環境の基盤をつくる必要がある。人材派遣するような体制も必要では⇒本別でも外国人技能実習生は増えている。現在のところ生活基盤安定の方策はない。人材派遣や調整機能について検討。

=2-4-1 (3) 高年齢者の労働能力の活用

高齢者就労支援センターで行っていたことを障がい者就労継続支援B型事業でできないか⇒現在もB型事業所で一部実施。事業所において対応できる件数が限られている現状。

高齢者の働く意欲を調査し仕事を紹介するしくみづくりが必要⇒R2年度に高齢者実態調査を実施。意向を把握し、体制づくりを進める。

・事務局評価B (達成率 60%~80%未満)

ハローワーク労働情報提供／とちぎ東北部移住サポートセンターの情報提供／中・高校生インターンシップの実施／季節労働者冬期雇用対策／振動病検診

委員：これから 10 年後といえば外国人がいっぱい働きに来るようになると思う。将来を見据えて外国人と共生していく地域社会にならないといけない。今も多くの外国人が本別に来ている。建設業や農業の関係で働いている。外国の人と本別の人が共生していく認識を持つことを計画の中にも入れてほしい。事業を継続していく上でこれまで利益があっても、働く人がいないと何もできない。本別の人口は年々減少していくことを考えていかなければならない。外国人登録者も人口に加わっている。今は外国人との共生について考えていかなければならない時代。

部会長：具体的にこのようにすべきとのご意見があれば。

委員：今、来ている人も寂しい様子。交流会を催すだとか。

部会長：今日の新聞に外国人労働者が望むものとして、ことばが通じない。慣習が違うので、母国の人たちが近くに居るのであれば交流したいと書いてあった。十勝全体であれば何百人も居る。これからは千人ぐらいが働く時代になる。本別独自では出来なくても、他町村や帯広市とコンタクトをとって、月に1回は気晴らしができるような場所を設けるといふことをすべき。そこで日本の習慣や社会のしくみを理解してもらって、長く働いてもらえるようにすべき。

委員：土木関係の外国人労働者は集まりをもっている。仙美里プロジェクトでは農業の人も集めてやってみようかということも計画している。焼肉や卓球などをして交流できればと。本別の企業では若い人があまりいないので、外国の人に働いてもらわざるを得ない。

部会長：本別に行けば母国の人にもたくさんいて、行政も住民もやさしく受け入れてくれる所だとなれば、住みやすくなって、長く働いてもらえるという形になる。これから介護の部分も外国人が担う体制を作らざるを得ない。夫婦で働いて、子どもも本別の学校に入る時代も来るかもしれない。そういったことを含めて施策を考えていくべきではないか。10年先の事だからわからないではなくて、こういう方向で進めていきますと。それではこの項目はそのようなことでしょうか。

④ 3章3節 1項 地域防災対策の強化、2項 消防・救急・水防体制の強化、3項 交通安全・防犯対策の推進、4項 治山・治水対策の推進

(総括シート **11月14日配布資料1** P144~157)

部会長：続いて4番目をお願いします。

事務局説明

- ・基本方針⇒災害に強いまちづくり、防災無線のデジタル化／避難時食料・防災資機材の備蓄／消防車両の更新／災害時要援護者・独居高齢者の防災対策／交通安全教育と啓発活動／防犯活動／治山事業／河川の保全

- ・事前質問=**2月20日配布資料** P11、12

=3-3-1 (1) 地域防災対策の強化

災害時要援護者の対応について、あらかじめ行政職員を担当地域に割り当てておくべきでは。

どこに避難を考えているのか⇒要援護者の対策については自治会等における自主防災組織との協議をすすめている。災害時には職員の役割は防災マニュアルによって既に決まっている。災害時要援護者については福祉避難所に避難。

災害モデル地区自治会を指定して意識を高めるべき。役場職員を自治会担当者として割り付けて、平時から連携をとるべき。防災無線機は全戸配布にすべき⇒モデル地区自治会の指定について検討する。災害時には職員に役割分担がされている。災害時には自治会との連携し、いち早く対応がとれるよう体制を検討。スマートフォンの普及から戸別受信機はいらないという人もいる。

- ・事務局評価A (達成率 80%以上～)

防災行政無線デジタル化／非常用発電機の設置／要援護者台帳登録整備／防災ガイドマップ作成／消防用車両更新／消化活動用被服更新／救助用機材更新／独居老人等への防火・防災啓発／地域防災計画の更新／交通安全教育／登校時における交通安全指導／こども110番の家／青色回転灯防犯パトロール隊／社会を明るくする運動／土砂災害警戒区域の避難体制整備

部会長：この点について何かございますか。

委員：避難時の要支援者名簿を作成したと書いてあるが、それによると避難支援の必要な人の人数を把握しているということなのだけれども、それぞれの自治会に職員を配置するとなると150人になると回答されているが、動けない人たちに連絡をとるとか、避難支援するとか、自治会との連絡は取れているのか。

事務局：名簿は自治会と行政の両方で持っている。災害にもよるが初期行動は自治会の方々にやっていただく。避難所まで連れてきていただいて、その後行政で振り分けたり、自治会から

連絡を受けて行政が避難の援助に入ったりとかする。ただ、水害だとか地震だとか広範囲で災害が多発的に起きた時に全てを対応できるかといえば厳しい。

委員：前回、地震の後のブラックアウトの時に、在宅酸素を使用しているので電気が必ず必要で、ケアセンターから連絡をもらって病院が使えると教えてくれた。そのようなことを2人や3人で行うと時間がかかるため、役場の職員が連絡を取るような体制がつくられていると安心できる。そのような体制をとってほしいと思う。

委員：役場の職員に自治会担当制度をとってほしいと意見を述べた。そうすることで普段からその自治会と連携がとれているから、「あそこのおばあちゃんが足がわるいとか、酸素をしているとか」そのように日頃から状態を把握している、水害や地震があったときに、「まず、あそこのおばあちゃんを助けに行かなければ」などと真っ先に対応がきくだろう。地域自治会は常に体制は整えている。「このおばあちゃんを誰が担当だよ」とやっちはいるのだけれども、行政に応援を求める時に誰に連絡すべきなのか、消防署に連絡すべきなのかわからないということがある。地域担当の人がいれば、その人に連絡をしたら消防署や色々な所に連携をとって来て、すぐ対応してくれるというような体制づくりが可能になる。清水町の水害のときの自治会長を対象にした勉強会があって参加した。そのときに話をしてくれた中央自治会連合会長が行政にもものすごく不満をもっていた。どんなことに不満があったかということ、行政は警察にストップされたら一切動かないと。地域の人が困っていても動かない。それは話を聞いてくれる人間がいないということだった。警察はここからは危険だから入れないと、でも動物を飼っているんで、なんとかしてやりたいと思う時に警察はダメだと。行政も聞こえないふりをして、住民の心を分かってくれない。聴いてくれる窓口があれば住民の対応も変わってくるのではないかと。結果的には「命が大切だからやめてください」と同じ結果となると思う。でも、ただダメと言われると頭にきたという苦情がたくさんあったという話をしていた。

委員：避難所に避難したときに体の調子がわるい人が同じ避難所に居るということはできない場合がある。そういう人には別の場所が必要であるというようなことを考えているのか。全員は無理かもしれないが、心身状況によって対応できる避難所の体制を考えてもらえれば良いと思う。

委員：重大事故が起きたら、行政職員は集められて町長指示の基に任務を割り振られて、そちらのほうをメインに動かざるをえないから地域のことは後になる。自治会内のことは町内会長に任せるしかないという感じになると思う。だけれども最終的には地域の担当になるはずだから、それであれば日常的に交流を深めている人がその地域の担当になった方が連携をとりやすい。地域のことをよく知っているからいつ何があっても、分かっていることを行動に起こしやすい。安心感を地域に与えるということが大切。

事務局：大雨時の企画振興課の役割としては土砂災害警戒地域である山手町、朝日町、錦町の住宅を1件毎にまわって、確認、周知したり、避難を指示すること。先程もあった電話で連絡することができれば電話で連絡する。2人1組なって訪問する体制をとる。ブラックアウトのときには独居老人の家と酸素を使っている人への連絡をケアセンターが担当した。ロウソクで火事にならないように注意を呼びかけながら2人1組で状況の確認のため訪問した。酸素のことも電話したり、直接家に行ったりもした。委員さんからもあったとおり、我々が日頃から自治会のことを知っておけば、確かに動きやすいということはある。それは自分の住んでいる自治会で職員が活動していればわかることだと思う。ただ、農村地域に行けば役場の職員が住んでいないところもあるので、日常からなんらかの形で把握をしておけば初動体制がとりやすいので課題として取り組むべきと思う。先程、体の不自由な人とかの避難所の話があったことについては、福祉避難所というのがある、アメニティ本別とか国保病院とか中央公民館もそう。

その福祉避難所が必要な人に配慮して優先的に使用してもらおう。例えば自閉症などがある場合、中央公民館に間仕切りをして、その設備が必要な人がそこに避難してもらおう。ただ、向陽町に住んでいる人の場合、一旦はふれあい交流館に避難していただき、専門的な支援が必要な場合、その福祉避難所に移っていただく。東日本大震災の際に問題となったのは、その施設の容量によっては、福祉を必要とする当事者と家族がバラバラにされることであった。

委員：それは無理だ。

委員：先に中央小学校で1泊して研修をした。その避難所に来た人をどう割り振りするか。小さなお子さん、障がい者も集まってくる。その管理責任者が「あなたはあちら」「あなたはこちらに」と指揮を執る訓練をしておけば迷わなくて済む。私も1回しか参加していないから、仕切ることにはできないけれども消防署や役場の職員、避難所の運営監督者はそのような訓練を受けておいて、こういう場合はこうすると決めておけば、住民は避難する時に安心できると思う。

事務局：意見をいただいている部分は防災担当とも協議してどのようにしていくかをお伝えしながら対応していきたい。これまでの話にもあったが地震発生直後とか、大雨災害が出た直後とかは特にバタバタしている。いかに第二段階、第三段階にスムーズに移行できるか。それぞれの色々な立場の方が動いて安心して避難いただけるかだと思う。スムーズに行けば良いが第一段階でまごついて進まない、何をやっているのかが見えないということがないように、訓練やシュミレーションを繰り返していくしかない。ブラックアウトの時には、私たちも経験をしたことがなかったのでどうして良いかわからない状況。大雨のときにもご自宅をまわっても不在の人だとかいて、もう一度訪問するとき、すでに避難している人がいれば、どうやって任務をこなしていくか等、想定外のことが沢山出てくる。第二段階、第三段階にどう進めるのかを悩みながら進めているというのが現状。

委員：避難場所に発電機というのは設置されているのか。

事務局：公民館は自家発電装置を持っている。役場も。病院も。

委員：他には。地域の会館はどうか。

事務局：小さな発電機はある。大きな発電機はブラックアウト以降に3台購入した。

委員：つまり全部には無いということか。

委員：うちの地域も発電機があるので声をかけてもらったが、車で充電する機能があったのでそれを活用できた。ただそれが長い期間になると考えなくてはいけない。酸素のことでエアウオーターがボンベを配ってくれたので安心できた。

事務局：今後も計画的に非常時の対応措置は進めていく。道の駅にも発電機を設置して配電盤を切り替えられるように改修するなど、順次進めてきている。

委員：同報無線機の話だが全戸配布の予定で予算をとって進めているが、実際にどれぐらいの要望があがってきているのか。

事務局：把握はしていないが、今年度と来年度で導入を進めている。今年度は役場の管理職と会社関係、自治会長、民生委員などを中心にすすめ、希望されている方にも一部分は渡っている。来年度もまた配布される。

委員：要援護者の調査をまた今後、実施することになっている。うちの町内会のことで言えば、高齢者からは何かあった時には教えてほしいと、そして連れて行ってほしいと言われている。若い人たちは自分で判断して行動できる。大雨洪水になったときに「早く逃げて」と放送が流れるけれども設置していなければ、わからないから、戸別受信機を設置した人は避難するけれども、付けなかった人はいつまでも家にいる。うちの自治会では「教えて、連れて行って」という人はまず無線機を設置しなさいと言ってきた。ところが高齢者の集まりがあって、そこで

聞いてみたら半分以上が申し込みをしていないということであった。自治会内では設置すべきと言っているのに半分以上が付けられないという状況であるので、他の自治会ではもっと設置してほしいとの要望が少ないのではないかと思う。予算も確保して、防災周知体制を取ろうとしているのであれば、充実した運営ができるように、特に高齢者にとっては強制的に付けるべき。積極的に設置を推進したほうが良いと思う。

事務局：そうですね。推進すべきですね。

委員：住民課の回答では若い人たちはスマホを持っていてとなっているが、若い人はどうやっても情報を集められるのだからけれども、一番心配なのは高齢者のことなので、自由に動くこともできないだろうし、その人達を避難させるためにはどうすべきかだと思う。

事務局：はい。わかりました。

部長：この項目の事務局評価はA評価ということになっていますがよろしいでしょうか。

⑤4章1節 1項 総合交通体系の整備、2項 情報通信の整備・利活用 について委員より意見・質問（総括シート **11月23日配布資料3** P158~168）

部長：それでは続いて総合交通体系の整備について

事務局説明

- ・基本方針⇒生活道路の整備／北海道横断自動車道釧路圏、北見圏の整備促進／帯広陸別線・浦幌生活維持路線バスの安定的な運行／光ケーブルによる高速通信網の整備／ホームページの充実
- ・事前質問=**2月20日配布資料** P12、13
=4-1-1 (2) 公共交通機関の確保
浦幌町との通学バス運行について費用対効果を考えるべき⇒本別・浦幌生活維持路線は十勝バスが運行を取りやめた後のバス運行を両町で行ってる。高校通学のほかに通院や買い物にも利用されている。1日4往復
町内空き家を利用して下宿補助などを行い、負担軽減すべき⇒下宿は2か所ある。今も補助制度は行っている。
=4-1-2 (3) 難視聴地域解消施設の管理維持
TVhが視聴できない。基地を設置することが必要⇒放送している会社は中継局を整備しない。電波中継局は高額であり町が整備すべきものではない。視聴できないのは町の中心部のみ。
- ・事務局評価B（達成率60%~80%未満）
道東道白糠-阿寒間、小利別-訓子府間開通／歩道のバリアフリー化／町有バス・太陽の丘循環バス・患者輸送バス運行／ブロードバンド環境が全町に整備／町ホームページ随時更新

委員：第6次計画のときも高速道路体系のなかでの本別ジャンクションの整備を進めて、それを活かしたまちづくりを進めるということで来たのだが、その時には実現すれば工業団地とまではいなくても物流の倉庫や車庫を誘致して、まちづくりのひとつの柱となっていたが、全然進んでいない。足寄から来たら本別で降りられないので使い勝手が悪いため障害になっている。陳情をして使いやすいように進めてほしい。町長も活動しているとは聞いているが、これをまちづくりのひとつとしていくとの計画があるのだから、努力すべき。その反省となる機会も今までなかった。第6次から継続して第7次もとなると思うのでこれを反省していかなければならないと思う。

委員：今のジャンクションは出来ないが、当初は足寄から釧路にも行ける計画であった。これで、足寄と陸別の間が開通したときには足寄から乗って釧路に行けるようになるの？先にジャンクションの整備をしてもらって、足寄から本別に行けるように整備をしておけばよいのではないか。そういう要望活動を展開できないのか。

委員：それをしてほしいと言っているのだけれど開発局もそう動かない。

事務局：国、開発局、北海道にも年2回から3回要望に行っている。

部会長：どう要望しているのか。

事務局：本別ジャンクションのフル整備と阿寒から釧路西までの整備。陸別と足寄間の整備を要望している。

委員：聞こえてくるのは足寄と陸別間を整備してほしいという話でジャンクションのことを言っていないのでは。

事務局：北見地区の要望では2番目の重点事項としてジャンクションの整備をあげている。陸別と訓子府間は工事が始まっていて、陸別と足寄間は現在、日本で唯一の凍結区間になっている。

委員：そういうことになっているのか。

事務局：この凍結を外さないことには次に進んでいかない。

委員：政治力が影響している。

事務局：この凍結解除のうごきも出ているということなので、この後にインターチェンジの話も見えてくるかと。

委員：総合計画の中に本別としてインターチェンジの整備を優先していくと、次に足寄、陸別間を整備すると本別が打ち立て、本別の住民がそう要望している姿勢を見せるべきではないか。

委員：7年、8年前にも高速道路によって本別を盛り上げようとしていた。その時には人口も1万人程いた。これからは人口も減っていく中で早くやらなければ困る。

事務局：我々も早く行いたい。

委員：早くやってほしい。ぜひ要望してほしい。

事務局：委員からは5次、6次からの懸案とのお話もいただいているので、我々としても早く実施してほしい。釧路市が人口16万人、帯広も16万人、北見が12万人の真ん中に本別がジャンクションを持っているとなれば、その圏域の役割を担うことでできる。ようやく少しずつ高速道路がつながってきて効果が出ている。例えば拓殖バスが運行している帯広から釧路空港までのバスの停留所を本別につくるなど少しずつではあるけれども、地の利を活かしたことが実現しているので、要望を強めて行く。釧路空港は帯広空港に行くより近いので、釧路空港を利用する住民も増えていくのではないかと考えている。そのための環境づくりも必要だと考える。本別の人は都合の良い方を選択できる。帯広空港を利用しつつ、時には釧路空港を使うと。選択肢が広がって、経済的なことや利便性によって使い分けることができる。

委員：帯広の駐車場は今は無料。釧路に行けば有料だから。帯広を利用している人が多い。

委員：今度、民営化になれば帯広も有料になる。条件が同じになれば釧路に行くようになる。

事務局：釧路空港の近くにインターができる予定。

委員：釧路の利用が増える。

委員：そうなれば増々本別ジャンクションの整備が重要。昔はトラックターミナルの構想もあって、夢が膨らんでいた。

委員：釧路、帯広、北見を結ぶ中心地なのだから新聞の印刷所をつくって、配送できるような体制になればメリットはある。新聞は今に無くなるという人もいるが、まだまだ無くなりはない。ジャンクションをつくって活用方法を検討していく必要はある。

委員：下宿の関係なのだけれども、今ある下宿は元々は高校生のためにと考えて建てたものだと聞いた。でも今は空いていないけれど、何名入るとなれば、今すぐには無理かもしれないけれど、うまいこと話し合いは出来ないのか。

事務局：オーナーからは相談してくれれば応じられるけれども、今、居る人に出ていってとは言えないけれども、前もって入りたい、入るということであれば可能な限り確保するとは言っている。

委員：下宿を活用できるのであれば下宿を活用したほうが良い。

委員：音更町からも来ている高校生に交通費をたくさんかけている。

事務局：そうですね。5百万円程。

委員：それだけあれば給食代を無料にできる。生徒を集めるためにやっていることなのだけれど、費用対効果を考えるべき。浦幌線のバスは浦幌町も半分以上出しているということだからいい。上浦幌は経済圏も本別であるし。

委員：高校に関してどこかで無理をしないとイケない。足寄高校も人数が少ない時には年配の人が受験をしたりした。

委員：そのような工夫をしてそれ以後も実績をあげている。

委員：本別もそうするべきであった。本別は大丈夫だと言っていた。

委員：転勤で本別に来るときに高校生になる子どもがいても、本別高校に入って大学に進学することを考えるよりも今の住んでいる地域の高校に行くとなって、単身赴任で来ることになる。私たちが本別高校は絶対に良い所だと強く言えない。

委員：本別高校は優秀な子を育てている。

委員：中学校までは優秀と聞く。

委員：本別は良い大学にも多く入っている。

委員：北海道大学にも数人入るようなぐらいでなければ。六大学とか。

委員：本別高校に行きたいと言う子もいて、その中で頑張っって良い成績を修めている子もいる。本別高校を無くしてしまったら大変なことになる。

委員：他所の町から集めたいということで実施していること。

委員：我々の部会が議論することではないのだけれども、本別高校に行けば良い大学に入れる、良いところに就職できるという実績をつくれる体制をつくっていく。足寄みたいに塾をつくって、それなりの大学に入れるように形をつくるのが、絶対の保障ではないけれども期待を持たせられるような体制をつくるのが大事。

委員：だからここで提言していくことが必要、ある程度のお金と体制が必要。審議会の中で取り組んでいくようにしなくては。足寄と本別の立場は逆転した。以前に協議していたときは本別が3間口で、足寄が2間口であった。本別高校は大丈夫と。足寄は意地になってやってきた。本別も頑張れば。

委員：お金の使い方だと思う。私の子どもがいた時には1学年62人いて1,700万円を支援費としていた、今は2,800万円以上を使っていて30人を下回る現状。お金が増えているのに人が集まらない。足寄と同じような体制をとっても変わらないのではないかという見方もある。本別独自の良さを出していかなければ、真似るのではなくて。足寄はカナダに行って行っている、ミッチェルに行かせよう。結局は真似ていると見えてしまう。違う何か魅力あるものに使うべき。

委員：本別高校に行けば英語が得意になる。ペラペラ話が出来ようになる。そのような環境をつくれれば、本別高校に行こうとなる。海外に留学させなくても英語が話せるような体制をつくる。そうすることで帯広からも生徒が来る。

委員：良い先生が来ることも。

委員：高校生の就職は心配ない。進学もどこどこに入学したというアナウンスも必要。

委員：そこそこの大学に入っている。

事務局：立教大学も毎年入っている。

委員：そういうことをお知らせして。

委員：立教大学の推薦枠は十勝では本別ぐらい。もう少し PR を。

事務局：北海道大学も受験している生徒がいると聞いている。

委員：私たちの子どものときには有名な大学や公立大学に複数が入っている。

委員：そういう実績を伝えていくことが必要。

事務局：このあいだ、本別高校の教頭先生もおっしゃっていた。私たちの PR が下手なのか。皆さんにわかってもらえるような手段が足りないのか。先生は色々なところに転勤するので本別、足寄のやりかたにはびっくりすると、こんなにお金をかけて張り合っている。

委員：いかに宣伝するか、魅力があれば。

委員：池田は吹奏楽で。何かたけている先生が来てくれれば。お金をかけなくてもよいこともある。

事務局：この議論については文教民生部会でも話をいただいている。

部会長：それではこの話はこれぐらいで。

⑥ 4章2節 1項 環境型地域社会の推進、2項 環境保全の推進、3項 水資源の確保と利用にいて委員より意見・質問（総括シート **11月23日配布資料3** P169～174）

部会長：それでは続いて事務局より説明をお願いします。

事務局説明

- ・基本方針⇒地球温暖化対策／新エネ・省エネ機器等の普及啓発／環境学習を総合的・体系的に推進／公害の未然防止／水資源の確保／良好な水辺の保全
- ・事前質問=**2月20日配布資料** P13、14
=4-2-1 (2) 再生可能エネルギーの導入促進
太陽光・バイオマス発電の設備投資・維持費は。今後のうごきは。災害に向けての取り組みは⇒太陽光・バイオマス発電とも設備投資、維持費を除いても利益は出る状況で、今後は家畜糞尿バイオマス発電を行っていきたい。災害時にも使用できるよう、自営線設置や、パワーコンディショナーを利用して非常用に活用する必要があると考える。
- ・事務局評価C（達成率 40%～60%未満）
地球温暖化対策実行計画／公共施設のLED化／太陽光パネル設置補助／SDGsの推奨／適正な森林整備

委員：上士幌町ではバイオマスによる電力網をやめたと聞いた。金が掛かりすぎる。

事務局：設備費はかなりかかる。糞尿処理では熱が発生するので、ハウスに利用したり、牛舎に利用したり、残渣物は畑に入れて肥料となるので、それらを有効に使えば利益はでる。

部会長：本別には発電設備はないよね。

事務局：北海道糖業にバイオマスはある。ビートの残渣を利用していると思う。

委員：発電ではなくガスを利用している。

事務局：本別でも建設に向けて検討していると、先日の産業建設部会では話が出ていた。送電線が1回線しかないこともあり、建設が進んでいない状況。ほくでんの送電線にのせられない状況で、ほくでんは5年程をかけて増設するよう。それが出来れば売電もできるようになる。

委員：価格は前は 40 円、30 円という時代があったが 10 円代になっている。採算がとれない。自家消費するのであればいいが。

事務局：送電線を配備して自分のところで使用したり、契約者に売ったり。

委員：ほくでも無料では貸してくれない。

委員：牛がたくさんいる酪農家は糞尿を処理していかないと、自分で処理しなくてはならず、まわっていかないのでしょうか？

事務局：そう聞いている。300 頭クラスのメガファームといわれる規模では糞尿処理が課題になっていると。

委員：そうになると町も補助を出して、やっていかななくては。

委員：糞尿処理だけをメインにして出来た電気は放電するとはならない。もったいない。お湯が温泉で使えたらいい。

委員：鹿追町ではチョウザメとマンゴーをつくっている。

委員：2、3 日前の新聞に上士幌の話が書いてあった。あきらめたと書いてあった。

事務局：北ガスがコーディネートをしている。地産地消費をめざしていた。

委員：農家はバイオマス処理をすれば喜ぶ。

委員：昔は糞を堆肥として畑に撒いていたが、今は処理をしないとできない。集めて処理をして、売却するなど手間がかかる。処理する経過で発電できるのが一番いい。

委員：本別はどこでやる予定なのか。

事務局：300 頭クラスのメガファームが町内に 10 件程あるそうで、その近くで実施したほうが効果はあると思う。

委員：町は補助をしていくと。

事務局：そうですね。固定資産税の減免などで。

部長：わかりました。この件について何かありますか。

⑦ 5 章 1 節 1 項 町民参加のまちづくり、2 項 地域活動の推進、3 項 広報広聴の充実
4 項 男女共同参画社会の形成 について委員より意見・質問

(総括シート **11 月 23 日配布資料 3** P 202~207)

部長：それでは続いて事務局より説明を願います。

事務局

- ・基本方針⇒条例委員等の公募制／自治会組織等の連帯／広報広聴活動の充実／男女参画の意識醸成
- ・事前質問=**2 月 20 日配布資料** P 14、15
=5-1-1 (1) 町民参加機会の拡充
条例委員の選考はあて職とせず適任者を選考すべき⇒無作為抽出による立候補などの導入を促進するとともに、各会議の現況を確認し、改善策を講じる。
警察署発行の回覧物は広報紙と一緒に全戸配布を⇒全戸配布するよう協議。
自治会運営で役員の高齢化、成り手が不足。自治会の統合も考えるべき⇒単位自治体の状況を確認し、自治会連合会で協議。
各種審議会・委員会の委員の女性割合を 30%以上とすべき。若い人が会議に出やすいよう配慮すべき。役場管理職にも女性登用を⇒会議委員における女性の割合を高めていけるよう努力。若い人が参加しやすいよう会議開催の工夫ややりがいを感じる工夫をしていく。性別や年齢にとらわれず、勤務実績や能力を判断して管理職登用をしている。
- ・事務局評価 C (達成率 40%~60%未満)

無作為抽出による委員選出／住民アンケートの実施／会議開催の工夫／自治会組織活動支援
／地区集会施設の維持／広報紙の定期発行／ホームページでの情報発信

部会長：この件について何かありますか。

委員：ちょっと関係のないことなのだけれど、新聞を見たら、ふるさと納税の関係で池田町が何億だかアップして、億単位で町財政に入れていると。本別ももう少し頑張ってもらいたい。今、財源を得るのに即効性があり、効果的だと思う。池田町では8億という数字。

委員：池田はクラウドファンディングでなかったか。

事務局：クラウドファンディングはワイン城の改修費用で別に行っている。

委員：それ以外にやっているのか。

事務局：ローストビーフが人気を得ている。

委員：本別も美蘭牛がある。

委員：本別も色々な手法を変えたりして、頑張ってもらいたい。

委員：本別はアイデアが無いということか。

委員：いい所の真似をして上げていくべき。

委員：真似したのは上土幌。10億円。

事務局：他のまちに抜かれていく。白糠町も実施していなかったが、始めたときに4億円も5億円も。

委員：チーズもある。

委員：本別はいくらなのか。

事務局：1億円。

委員：頑張っていかなければ。

委員：本別は何があるのか。

事務局：明治の製品、前田さんの小麦粉、山口さんの納豆、スイートコーン、アスパラ等。

委員：北糖は

委員：北糖の砂糖は使っているお菓子屋さんの商品で登録。

委員：オリゴ糖は。

委員：今は作っていない。

事務局：篠原精肉店さんなど事業者数は多いが、飛びぬけているヒット商品というものがない。

委員：いま本別餃子も出している。

委員：本別は長芋もとうきびもうまいものが採れる。全国に送っても喜ばれるものはたくさんある。けれども、とうきびだけほしいという人はそういない。工夫をして本別産品を年に3回に分けて、芋の時期、とうきびの時期とかに送れば、みんな喜んで寄付をしてくれるのではないかな。

委員：送料が高くなる。

委員：送料は高くなるが、その代償を払ってもネームバリューを上げていくべき。本別の名前が出せるだけでもいい。話題になれば。

委員：でも、あの失敗はダメ。信頼を無くす。今年の今頃だね。

委員：池田は知っている。足寄も知っている。本別はどこ？と言われる。確かに作物もおいしい。でもブランド化されていない。川西長芋もブランドになっているけれども本別からも行っている。

委員：豊頃大根も本別の物が行っていた。昔から本別は良いものが採れると知っていて、本別ブランドをつくらなくて、どうぞうちの製品を使ってくださいという形である。

委員：北海道では毎日、テレビで本別ジャンクションの名前が出ている。有名だと思う。

委員：勘違い。札幌のすすきので新入社員研修で本別を知っているか調査をさせる、本別ってどこ？と。東京の神保町でも同じことをするが、全く知らない人ばかり。札幌であれば十勝の出身者もいるから知っている人もいるが、ネームバリューは無い。平取では30年程前に3人の殺人事件があった。そのことは覚えられていて、あの事件の平取ですかと、悪い事は広まることも早い。

委員：地域づくりセミナーで講師の先生が「どのようにこの地域を知ってもらうか」「発信するにはどうすべきか、知ってもらうためにはどうすべきか」話をしていた。

委員：この間、本別で若い人たちがまちづくりについて意見を交わしたことが新聞に掲載されていた。同じく発信力の話が出ていた。本別は発信力が足りないことを若い人から高齢者までみんな自覚している。自覚していてもなかなか動かない。

委員：三万坪迷路の時には全国版で紹介されて、昨年からまた、ひまわり迷路が取り組まれて、期待したい。

部会長：それではこの項目は発信力が足りないということによろしいでしょうか。

⑧ 5章2節 1項 行財政運営の推進、2項 開かれた町政づくり について委員より意見・質問

(総括シート **11月23日配布資料3** P207~213)

部会長：事務局より説明願います。

事務局：今の話で財政的な話も出ていましたが

- ・基本方針⇒健全な財政運営／行財政改革計画の推進／まち・ひと・しごと総合戦略の推進／情報公開制度、個人情報保護制度の運用
- ・事前質問=**2月20日配布資料** P15
=5-2-1(2) 効率で質の高い行政運営の推進
防災行政無線で町議会の様子を放送しては⇒防災無線を使用して長時間放送することは電波法で禁止されている。
- ・事務局評価B(達成率60%~80%未満)
各種町税収納率向上／行政改革／公有遊休地の適正管理／議会だよりの発行／権限移譲事務の実施／まち・ひと・しごとの好循環の実践

委員：まち、ひと、しごと委員会の話で素晴らしい意見が出るのだけれどもそれが形にならないという。せっかくすばらしい案がでているのであれば、加工をしてし出すべき。意見はだしてもと本人たちはフラストレーションが溜まっているとも聞く。

委員：まちづくりで若い人たちが集まったときに、本別町をどうしていくかということについて、盛り上がって話をしている。私たちがまちづくりセミナーに参加して、そこで先生がここで1つでもいいから実現可能な話をまとめましょうと言った。そのつもりで参加者もグループ協議して「こうしよう」「こうしたら」と話をした。会議録もつくった。「良い話をしているね」で終わっている。問題は今、出ていた話でせっかく良い話が出ているのであれば、どんな形でもいいから実現するように、失敗してもいいからやってみようという雰囲気にならないかと思う。アイデアは出てくるのだけれども慎重になっている。先に進めない。そういうことでフラストレーションが溜まることになっている気がする。

委員：まちづくりセミナーで出た話はまとめて、町長まで上げていくということであったがどうなっているのか。

事務局：報告書は各課に通知して見てもらっている。自分のセクションで出来ることがないか確認している。例えば小豆餡をつくることについても協議している。

委員：本別公園の御所の下で作って、上で販売するようにやろうと思えばできると思う。新たに建てるとなると大変だから。少し変えればやろうとすることはやれる。

事務局：中国産がコロナウイルス感染症の関係で生産できなくなっているの、北海道はチャンス。ただ、値段の面では一緒にならない。

委員：都会では十勝産のものが欲しい。それを加工することで付加価値がつく。販売ルートが確保できれば問題はない。

事務局：老舗のお店は十勝産にこだわっているかもしれないが、十勝の餡が欲しいと言われても原料と変わらない値段で求められたら生産できない。

委員：家で豆をつくっているから、わざわざ仕入れるわけではない。家にあるものを加工すれば。

事務局：それでは数に限りがある。

委員：工夫をすれば良い。1等級の豆でなくてもいい。はねられた物を使えば。本別では豆を選別して良い品質の豆を供給している。でも地元で販売する物ははね品を安く出すやりかたにするとか、農協も工夫をしてもらって農家の売り上げを増やすような工夫を行政と一緒に関わってほしい。今も農協は手選別しているのか。そのくず豆はどうしているのか。

事務局：小豆は品薄でくずも売れると聞いている。みなさんが欲しがっていて、それすらも安い値段ではなく売れている。

委員：昨年と、今年は小豆の値段がいい。安いときには1俵9,000円であったが、昨年は28,000円の値が付いた。それでも60kgを使って加工しても元は取れる。自分で作った豆を使えばなお。

委員：本別公園の御所に飲食する設備ができて、利益はないだろうけれども、あきらめることなく続けて、あそこに行けば食事ができるということを根付かせるために、つないでいく必要がある。ある日行ったらやっていなかったとなれば、もう来ない。

委員：前に行ったらやっていなかった。

委員：やはり継続は力。本別公園に行っても食べる所がないと言われてしまう。

委員：そういうことに対応するためつくった。

委員：それで客が居ないからやめたではダメだ。

事務局：夏の観光シーズンは毎日レストランの営業をしている。春先と秋口には週末の営業になっている。せっかく来ていただいても営業していない日もある。

委員：人件費が出てこないのか。

事務局：観光協会としても赤字にならないようにと、コーヒーとかソフトクリームは販売しているが、食事は週末にしかない時期もある。

委員：繁忙期以外でも担当の人を配置してあるのであれば、レトルトカレーでも提供できないか。時期によってはカレーライスだけでも良いのでは。そのようにサービスを提供すべきだ。食事もできないのであれば、もう来ないとなる。

委員：街のなかの飲食店が減っているの、工夫をすれば通年で飲食事業をできるかもしれない。公園に行けば食事ができることと定着することが必要。

委員：あっちも、こっちも飲食店が無くなってきている。街の人も本別は飲食店が無くなってきたと言っているだけで終わってしまっている。「ここはおいしいよ」と宣伝できるようなものになれば良いが「本別は店がないから」で終わってしまう。

委員：メニューの種類がたくさん無くても本別ならではのものが2、3品あって、それが「おいしかった」となれば。黒豆とかを調理できないか。

委員：インスタントの自動販売機でも良いのでは。公園で遊んでお腹がすいたら、その場所で食べることができる環境をつくる必要がある。事業を継続するために赤字を出すぐらいの覚悟でやっていかなければ。年間を通してプラスマイナスになるぐらいの感覚でやってほしい。

委員：季節で雇用を切ってしまうので働く魅力としては薄い。募集をしても人は来なくて大変になる。働く人を確保することも考える必要がある。

部会長：他にご意見はありませんか。では次に進めます。

⑨5章3節 1項 広域行政の推進、2項 国際交流・地域間交流の推進 について委員より意見・質問 (総括シート **11月23日配布資料3** P214~219)

部会長：事務局よりお願いします。

事務局

・基本方針⇒広域的な連携施策の推進／国際交流の推進／地域間交流の推進

・事前質問=**2月20日配布資料** P15

=5-3-2 (1) 国際交流の推進

中高生の国際交流は隔年で実施しているが、英語教育の充実と本別高校の進学者のため毎年
にすることを検討すべき⇒R2年度より本別高校2学年生と希望者全員をオーストラリア
ミッチェルに派遣することを予定。

・事務局評価A (達成率 80%~)

広域体制による医療体制の充実／災害時の相互支援体制の整備／足寄町・陸別町との連携／
十勝圏複合事務組合 (帯広高等看護学院、十勝市町村税滞納整理機構、十勝教育研修センター、
し尿処理、ごみ処理)／オーストラリアミッチェル交流／徳島県小松島市交流／宮城県
南三陸町交流／白糠町包括交流連携

委員：毎年高校2年生がオーストラリアに行くの。

事務局：そう聞いている。対象者は全員で希望する人を派遣。

委員：期間はどれぐらいなのか。

事務局：ホームステイで実施とは聞いている。

委員：オーストラリアで4、5泊になるのでは。

事務局：機内泊が2日程ある。

委員：修学旅行を兼ねるのか。

事務局：別になると思う。

委員：高校の修学旅行は2学年だ。

委員：個人負担はあるのか。

事務局：あると思われる。

委員：足寄町は町が全額負担。

事務局：文教厚生部会の中でも議論がされていて、生徒たちは喜んでいるのだろうか。

委員：ただ単に海外旅行をするのではないので、語学や習慣の違いを学んで、良い経験になってくれれば良い。

委員：これまでは国際交流協会の人携わってきたのだけれども、今後は役場の人を中心に進めていくのか。

事務局：おそらくマイクさんを中心に動いていただいている。

委員：マイクさんと国際交流協会のメンバーはやり取りをしている。けれども町が予算をとって主体的に実施するのであれば町で進めてほしい。

委員：これがきっかけとなって本別高校の入学者が増えればよいが。今年の入学者は29人となっている。

委員：来年の学年は多いので。その次の年は少ないみたいだけれども。

委員：来年は多くても本別高校を受験する人が少ない。

委員：昔は足寄からも池田からも来ていた。

委員：昔は大学に行こうと思う人が来ていた。

委員：十勝では柏葉に次いで2校目にできた学校。

委員：柏葉、三条、本別の順で成績の良い学校であった。北大は何人か入っているのか。

事務局：ここ数年はいない。教育大学は多い。小樽商大も数名いる。

委員：北大に2人ぐらい入っていれば、本別にも人が集まるのだけれども。

委員：役場の職員は自分の子どもを本別高校に入学させるべき。

部会長：これぐらいでこの項目はよろしいでしょうか。

4. その他

部会長：その他のことで何かありますか。

委員：役場職員の不祥事がここ数年多い。わからなかったことが発覚するとか。ミスが何件も出てきている。職員に対する教育の徹底がされていない。勉強会もしていると聞いているが成果が出ていない。町長以下、各職制において職員教育がおろそかになっているではないか。そのことについては町としてどのように捉えているのか。

事務局：企画振興課でも車検の切れた軽乗用車を気付かず数日間使用していた。経過を確認してお詫びをしたところ。通常であれば自賠責保険と車検はセット、任意保険とかも。そこを気付かずにお叱りを受けたところ。新人、中堅、ベテランの役割がどうなっているのかというご質問ですが、私たちの年代で話していることは、若いときには上司からたくさん怒られて、今は怒ってはダメだと下から言われる。ゆとり世代というか、厳しくすると逃避してしまう。でも厳しく教えなければ下は伸びていかないというジレンマがある。接し方も考えていかなければならない。町長や副町長からは職員個々がパソコンに向かってばかりいて、職員同士話しているのか。同僚の家族のことを知っているか。誕生日のことを知っているか。以前は知っていて、そこからコミュニケーションをとっていたが、今は朝来てすぐにパソコンを立ち上げてしまう。今はコミュニケーションのとりかたも変わっているのは仕方のないことだけれども、上司としてコミュニケーションの取り方を勉強しろと言われている。世代間でも接し方が変わってきている。若い人に教えないでいけば放置されたと言うし、心配して色々聞いたりすると干渉されると言う。若い人はそういうものだと思って、若手やまわりの職員のペースだとかスタイルを見ながら自分たちが研究して、接していく必要がある。今の子はイヤであればすぐに辞めてしまう。役場でも実際に辞める者が出てきている。以前は入庁したら定年までというのが当たり前だったけれども変わってきている。コミュニケーションをとりながら法令遵守だとか、仕事の基本を教えていかなければならない。決して今の若い人がダメということではなく、これまで育ってきた環境、親から与えられてきたものも全て違うので、私たちもハングリーの世代ではないけれども、今の子たちに比べてみると考え方や行動など違ってきている。委

員が心配されるように、私たちも皆さんからアドバイスをいただきながら進めていきたい。もうひとつは中間層の職員が少ないということ。どこの担当も課長補佐、主査クラスその下の年代がダブルスコアぐらい離れている。うちの課も 50 代と 30 代、40 代と 20 代の担当の組み合わせが多い。そのようなびつな状況も影響していると考えている。みなさんも役場の体制を見ていて感じることも多いと思う。

事務局：以前は食事に行こうとか飲みを誘うと喜んでくれたが、今は何か言われる、面白くないので、気の合う者どうしで行く。

委員：嫌味な上司になれとはいわないけれど、管理する人が、仕事の進捗状況を把握して「あれやったか」「これはどうなっている」とかを言わなくてはならない。今の若い年代は言われなかったら動かない。下向いて仕事をしているだけで、何をしているのかわからない。教えなくてはいけないことは緊急度について、1 番目には何をしなければならず、2 番、3 番はと、毎日の業務の中で意識して仕事をするかどうかということ。癖をつけさせること。そして「あれは終わったのか」「どこまで進んだ」ということを上司が何でもやらずに管理をする、声かけを常々やれば、煙たがられるがいつも見られているとの意識を持つ。それで仕事も進む。そのような「昔の導き」というのも必要だと思う。

委員：これとこれをやってほしい。分からなかったら聞いてと任せておいて「できたのか」と聞くと出来ていなくて、「分からなかったら聞いてと言ったよね」と確認しても聞くことすらできない。一つずつ見ていて指示をしなければ動けない。

委員：部署ごとにマニュアル化されている。だいたい仕事の流れ、こうやるとこうなると紙に書かれている。でも、見たらわかると放っていたら仕事が進まない。マニュアルに書かれていることが出来ているかチェックしてやる必要がある。常々指示をしてやらないとクレームの付く商品になってしまう。先程のもそう、車検に付き物は保険。どちらかだけはあり得ない。

事務局：車を所有している者であればわかること。保険を払うなら車検を受けなければならない。それが結び付いていなかった。

委員：各部署で車を保有しないで管財で一括管理していないのか。

事務局：今回の件は本別公園専用の車両。現場の人たちは役場の事務がやってくれていると思っているので、疑わなかった。他の車両は建設水道課で一括管理している。

委員：誰が気が付いたのか。

事務局：事務かたの職員が支出されていないことに気が付いた。

委員：誰かから指摘されたのでなくてよかった。

委員：他にも何かあったのか。

事務局：ふるさと納税のワンストップ特例の手続きで、データをパソコンで送ったものが 50 件の件数制限があって、51 件目以降のデータを別に送信しなければならなかったものをシステムを理解していなくて、ふるさと納税をした人の税控除情報が一部送信できていなかった。

委員：あとは以前から問題になっている税の徴収問題。

委員：あれは犯罪、事件だから。

委員：なぜ、今も出てくるのか。町長が以前、町民に説明したときにはもうありませんと言っていた。それなのに今も発覚している。町長は何を調べて話をしたのか。

事務局：納税している人はもちろん町に入っていると思っているから、事件があったときには自分の税金が着服されているとは思ってもいない。実際には不納欠損といって一定の期間に支払いがされていなくて時効が成立し、徴収すべき税金を無くす処理をして徴収した金額を着服していた。その欠損処理がされた該当者の家を 1 件ずつあたって、納付の確認をとって、納めた納付書を確認して、事件と関係があるかを確認する作業をここ 2 年間行ってきた。

委員：その金額は請求しているのか。

事務局：損害賠償請求訴訟をおこなっている。

委員：その犯人にか。

委員：それが取れなかったらどうなるのか。

事務局：町の損益になる。

委員：払ってもらえない場合、調査した費用のほうが多いのでは。

事務局：裁判費用を含めてそうなる。

委員：1人の人に任せっきりだからこうなる。課長、課長補佐、係長がダブルチェック体制で仕事を進めていかなければならない。特に金銭に関わるものについては、だれも悪いことをしないでだろうと信用してはダメ。

委員：人間関係のことだからチェックもしづらいこともあると思う。定期的な人事異動もしなければならぬ。

委員：人事異動は戦力ダウンすることにもなる。能力が下がる。また、1から勉強しなくてはならない。

委員：実際には4、5年で異動はしている。

委員：管理する人の異動は問題が少ないが、窓口業務は戦力にならない。管理職が厳しくチェックしていく必要がある。

委員：長い勤務期間は問題。特にお金に関わる部署は。

委員：誰かがチェックして何かを言う体制がないといけない。

部会長：他に何かその他でありますか。なければ、今日はたいへん遅くまでありがとうございます。3月の2日に全体の審議会があるとなっておりますので出席方よろしくお願いたします。今日はご苦労様でした。

後からの確認した事項

防災無線戸別受信機について⇒31年度は2月末時点で1,112件の申し込みがあり、608件に設置。

今後、広報紙で希望者に申請を促す。

本別高校海外研修⇒本人負担20,000円を予定。実施時期は1月に機内泊含め7日を予定。